

法学部
デファルコ・リーアアン
先生推薦



『高慢と偏見〈上〉〈下〉』

オースティン, ジェーン
(岩波書店)

私は高慢と偏見を何度も繰り返して読みました。オースティンの文体は独特の美しさを持っています。精緻を極めた人物描写と軽妙なストーリー展開で、オースティンの著作の中でも傑作と名高いです。高慢と偏見は古典的な小説とはいえながら、現代の読者の魅力を保持し、文学者と一般人の間で大好きな本のランキングリストの一番上に一貫して現れます。2000万部以上のコピーが売られていて、英文学の中で最も人気のある小説の一つになっておりました。

『世界の十大小説』の中で、本作を2冊目に挙げ、「大した事件が起こるわけでもないのに、ページをめくる手が止まらなくなる」と評価しました（西川正身訳、新版岩波文庫）。夏目漱石が冒頭の書き出しを激賞していました。

この小説を読みながら、昔イギリスの優雅な文化を感じられますので、高慢と偏見を楽しめるよう願っています！

元気はつらつとした知性をもつエリザベス・ベネットは、大地主で美男子で頭脳抜群のダーシーと知り合うが、その高慢な態度に反感を抱き、やがて美貌の将校ウィッカムに惹かれ、ダーシーへの中傷を信じてしまう。ところが…。ベネット夫人やコリンズ牧師など永遠の喜劇的人物も登場して読者を大いに笑わせ、スリリングな展開で深い感動をよぶ英国恋愛小説の名作。